

◎食育推進の立場で学校給食を

問 食育の推進が国の重要な課題となっている。国の食育推進基本計画で、学校給食はどのように示されているか。

答 学校給食の普及・充実に向け、「生きた教材としての活用」「地産地消の推進」「単独調理方式の効果の周知・普及」などの必要性が示されている。

問 市の学校給食センター大型化や民間委託の方針は、こうした食育推進の立場と逆方向ではないか。

答 行政の効率化だけでなく、安全でおいしく、衛生的な給食の維持・向上が図られる。また、学校栄養職員による専門的な食育の推進など、教育の一環としても、適切な運営方法であると判断している。

◎新たな課税は納税者の理解・納得を

問 都市計画税の目的、税率、使途など、知れば知るほど疑問・不満・怒りが募っている。どう認識しているか。

答 広報紙等への掲載、新たに課税される方へのお知らせなど周知に努めてきた。お知らせには33件の問い合わせがあり、それぞれに回答し理解をいただいたと考えている。



市広報紙による都市計画税の周知

◎焼却場建設に伴う地域振興施策は

問 サンサーラいごおか内多目的広場において、更衣室や日陰がないなどの問題点への対応はどうか。また、今後の外部委託をどう考えるか。

答 多目的広場は、袋井市森町広域行政組合が、雨水調整池兼用として整備した。広場内のベンチや更衣室等の設置は、調整池との兼ね合いから難しいが、今後、利用状況や利用者の意見を伺い、必要に応じ設置を検討していく。今後の管理は、風見の丘との一体的な管理方法を検討したい。

問 平成23年4月にオープンする風見の丘への交通手段をどうするか。

答 自主運行バスの乗り入れができるように、運行路線の見直しとあわせて検討していきたい。

問 小笠山山麓開発の用地調査結果の報告は。

答 平成20年度に、自然環境調査の対象区域約220haのうち、県道磐田掛川線の南側を中心に、約96haの区域の調査をした結果、筆数は1,171筆であり、地目別では、山林が54haで約56%、畑が29haで約30%、地権者は224人であった。今後、まずは、これまでの経過を笠原地区へ報告していきたい。



サンサーラいごおか内に整備された多目的広場